

平成23年度事後評価結果(平成24年3月)

[研究開発課題名] Javaバッチシステム開発自動化ツールの研究開発

[委託機関名] 株式会社キャナリーリサーチ

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>(1)十分に開発目標を達成しており、成果は妥当と考えられる。 市場としては、Javaがよく用いられるITサービス系の業界が対象となるが、この分野でのソフトウェア開発自動化ツールの市場規模は今後も拡大が予想される。特許は出願1件、展示が2件であり、今後の努力が期待される。</p> <p>(2)Eclipseの環境およびプラグイン開発ツールを上手に利用することにより、効率的に所期の目標を100%達成していることは評価できる。技術内容としては、革新的な優れたアイデアによる新規の成果ということではないが、企業における開発事案としては、妥当な水準の成果であると考えられる。GUIにおけるデータベース操作コマンドの入力から、JAVAコード実行まで、Eclipseの環境の中で、開発できることにおいて、実用的な価値は十分に認められる。現状で、RC(Release Candidate)に至っており、技術的には十分な水準にまで、達成されていると考えられる。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>受託者が、類似製品の開発・販売実績を持つ大手SIヤーにOEM提供を行い、販売実績を上げながら、大手SIヤーの評価や機能追加要望を受けて製品のグレードアップを図っていく計画は、提案製品の優位点を業界に認知してもらい、市場を獲得していくうえで有効である。また、このために、●●●での類似製品の開発経験や、パッケージソフト販売の営業経験を有する●●●●●●●●●●社を総代理店としているのはOEM交渉と販売を進めていくうえで適当である。提案製品は、Javaの自動生成によりすべてのバッチプログラムを実現可能としていることが特徴で、これは、●●●の既存製品を含め、他社製品でサポートされていない。また、既存製品のなかで比較的高い機能を有し利用実績のある製品●●●●●●●●●●を持つ●●●●が平成21年6月の提案時点で評価実施のうえOEM提供を受ける意向を示したのも、現在、提案製品の評価試験を実施しているのも、提案製品の機能の適用性を認めているためと考える。</p> <p>しかるに、受託者が2012年度～2014年度における主なOEM提供先と予定している●●●とのOEM契約は、平成21年から具体的な進展がみられず、現在でも●●●とのOEM契約が締結されていないため、今後、OEM契約が締結されたとしても予定より遅れる可能性が高い。また、受託者が収益の期待度に記載している単価は、エンドユーザ向けの価格であり、OEM提供先の販売価格は、これよりも低くなる可能性がある。このため、●●●へのOEM提供を予定している2012年度からの3年間は、予定どおりの売上達成に向けて一層努力する必要がある。また、他のSIヤーとのOEM契約交渉が進んでいない状況では、その後の売上も予定どおり達成するには相当の困難を伴う。このため、目標どおりの金額の納付を実現するには、●●●とのOEM契約締結を予定どおり達成するとともに、他のSIヤーとのOEM契約獲得に向けた努力が必要である。</p>

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。